

算数に関する調査の結果にみられる特徴と現状分析

- ◇正答率が全国平均と同程度か、やや上回っている問題が多い。
- ◆数と計算の領域では、「単位分数の幾つ分として捉える問題」「数直線上に示された数を分数で書く問題」に課題が見られた。
- ◆変化と割合の領域では、「『10%増量』の意味を解釈し、『増量後の量』が『増量前の量』の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる問題」に課題が見られた。
- ◆データの活用の領域では、「目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題」に課題が見られた。

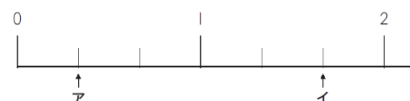
指導改善のポイント

本年度調査も実生活を想定した問題や、情報量の多い問題が多く出題された。問題場面を理解したり、問われていることが何なのかを理解したりする「読解力」を鍛えるためにも、普通の授業で扱う問題を工夫して慣れさせたい。

数と計算

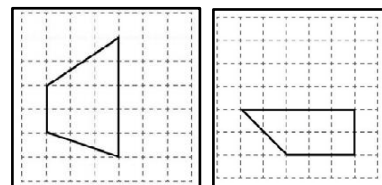
- $1/4 + 2/3$ を「もとにする数を同じにして考える」ことがどういうことを理解できていない児童が多い。「10のたばで考えると」や「0.1をもとにすると」など、「もとにして考える」ことは1年生から学習する大切な見方・考え方である。また、共通する単位分数が $1/12$ であることは求められても、 $3/4$ と $2/3$ はそれぞれ $1/12$ の幾つ分かが解答できていない児童も多くいる。分数の加法減法の計算に慣れてきたところで、再度「なぜ分母をそろえて計算するのか」について説明させるなどして理解を深めたい。
- 右図のイを $5/6$ と解答した誤答が目立った。数直線上に示された数を分数で書くためには、0から1までが何等分されているのかに着目し、単位分数を捉えることができるようにしたい。

(3) 次の数直線のア、イの目もりが表す数を分数で書きましょう。



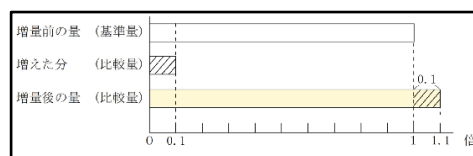
図形

- 上下に向かい合った辺がある台形、下底より上底が長く直角のある台形など、見慣れない図形であっても弁別できるようにしたい。図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目しながら、弁別した理由を説明する活動を取り入れて理解を深めていく。



変化と関係

- 10%を0.1と捉えることはできている。しかし、10%増量が110%になることが捉えられていない。図を用いて、基準量を1として0.1や1.1に当たる比較量を表したり、基準量を100%として10%や110%に当たる比較量を表したりすることで、「増えた分」と「増量後の量」の違いを明らかにして理解させたい。



データの活用

- 「2023年は2013年より増えた」と判断できる児童は多くいる。一方、その判断の理由が記述できていない。授業では、グラフから結果を判断だけでなく、グラフのどの部分やどの数値に着目したのかを他者に分かりやすく説明する活動を取り入れて力をつけたい。

